



ブラジル中銀もボルソナロ政権の改革の行方を注視

- ブラジル中銀は政策金利を6.50%で据え置く。今後の金融政策についても様子見を継続する中立姿勢を示す。
- ボルソナロ氏勝利で決着した大統領選挙を受けて、ブラジル中銀は財政改革の不透明感への警戒感の緩和を示唆。
- ブラジル中銀は「経済・財政改革を進めることが中長期的な物価安定と構造的な金利低下に必要不可欠」と強調。
- 選挙の決着により落ち着きを取り戻す金融市場。今後は政権発足に向けた具体的な政策の進展に注目集まる。

ブラジル中銀は政策金利を6.50%で据え置き

ブラジル中央銀行は10月30-31日の金融政策委員会(COPOM)で政策金利を6.50%に据え置く決定を下しました(図1)。今後の金融政策についても様子見を継続する中立的な姿勢を示しました。

選挙結果を受けてブラジル中銀の警戒感が緩和

ブラジル中銀はCOPOMの声明文において、今後の物価見通しに関わるリスク要因として、①景気低迷のリスク、②経済・財政改革の不透明感が高まるリスク、③新興国の経済見通しが悪化するリスク、の3つを指摘しました。

ただ、ブラジル中銀は「前回会合(9月18-19日)以降、リスク・バランスの非対称性は解消された」と述べ、インフレ・リスクへの警戒感の緩和を示唆しました。これは大統領選挙で年金改革の継続などを主張するボルソナロ氏が勝利したことによって、②の経済・財政改革の継続性に関する不透明感が和らいだことが影響しているとみられます。

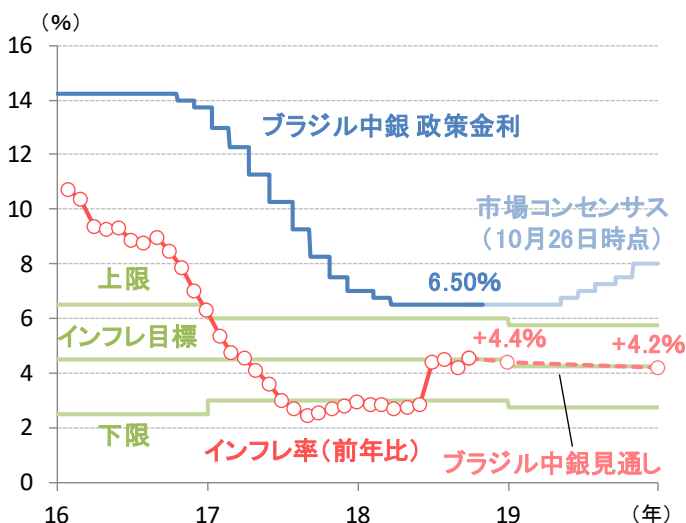
ブラジル中銀は声明文の後段では、「経済・財政改革を進めることが中長期的な物価安定と構造的な金利低下に必要不可欠である」と強調し、次期ボルソナロ政権の経済・財政改革の進展を注視する姿勢を示唆しています。

大統領選挙が決着し、市場は落ち着きを取り戻す

2018年5月から9月にかけては、新興国市場の動揺やブラジル大統領選挙に関わる不透明感からブラジル株やリアル相場は軟調な展開が続きましたが、大統領選挙がボルソナロ氏勝利で決着したことでブラジル市場も落ち着きを取り戻しつつあります(図2)。大統領選挙が実施された10月のボブスバ指数は10.2%上昇、リアル相場も対米ドルで8.8%の上昇と堅調な推移となりました。

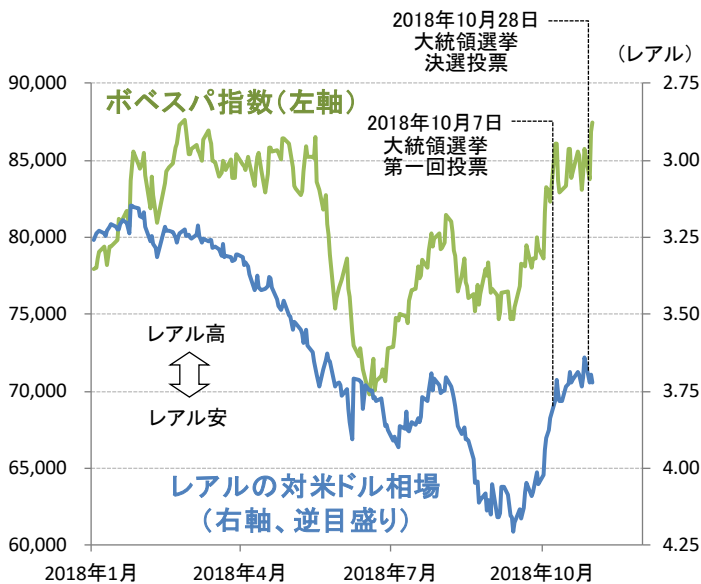
足元での市場環境改善はボルソナロ政権への政策期待を反映したものと考えられますが、今後は政権発足に向けた具体的な政策の進展に市場の注目が集まりそうです。

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)
 (期間)政策金利:2016年1月1日~2018年10月31日
 拡大消費者物価指数(IPCA):2016年1月~2018年9月
 (注)ブラジル中銀のインフレ見通し(市場シナリオ)は、政策金利と為替レートの予想前提に市場コンセンサスを使用したもの。

図2:ブラジルのボブスバ指数とリアル相場の推移



(出所)ブルームバーグ (期間)2018年1月2日~10月31日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。